

カウンセリングのお作法

第三十回

CONカウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美



家族面接 初回の社交的段階

呼び名、呼び方



お母さん？ママ？

あなたは子どものころ、母親に話しかけるとき、どう呼んでいましたか？

「お母さん」それとも「ママ」ですか？

では、現在のあなたが、母親に直接話しかける場合、どのように呼んでいますか？同じですか？呼び方は年齢と共に変わりましたか？

二十歳前後の大学生にたずねてみると、こたえた人の多くが「お母さん」「かあさん」でした。中にはずっと「ママ」と呼んでいる人もいました。

頼みごとをするときは、「お母さん」だけでなく、それ以外は「ちよっと」とか「ねえ」と言い、大学生になってからは、ストレートに呼ぶことができない、呼ばなくなったと話

す人もいました。ただし、友人と話すときは、「うちのおかん」と言っている人もいました。おかんと言っているときの話題は、ちよっとした笑い話のようです。

誰が誰をどのような場面でどう呼んでいるのかは、家族の雰囲気や、親と子の関係性また、その変化を映し出しているように考えます。

今回は家族カウンセリングの初回面接についてです。初対面での家族への呼び名、呼び方にも配慮した社交的段階のプロセスを話します。

初対面のあいさつ

初回の来所では、相談場所に家族が到着してから相談内容の本题に入る前にいくつかのステップがあります。まずは受付表などに記入をします。本人の名前、生年月日、住所、

連絡先、同居家族の名前、年齢学年などです。さらに、紹介者の有無、紹介状持参の場合は、書類をみせていただきます。

事前に相談内容は電話等で把握し、受け付けられる内容かどうかの判断はできている場合が多いため、この場面では事務的な手続きが中心です。

予約の時刻になると面接室に入り、全員の着席を確認してから、カウンセラーが自己紹介をします。

約九十分の家族面接の流れを説明して、おおよその時間配分、そして、プライバシーを守ることを伝えます。

「それでは」と言いながら、仕切り直しのために改めてあいさつをして、本格的に面接が始まります。

呼び名・呼び方

母親の呼び方は



お母さん？



ママ？



うちのおかん



家族面接

初回面接の4段階

ジェイ・ヘイリィ

- | | |
|----------|-------------------------|
| 1 社会的段階 | あいさつを含む社会的段階 |
| 2 問題確認段階 | 主訴を中心にやりとりが行われる問題確認段階 |
| 3 相互交渉段階 | 家族がお互いに話すように要求される相互交渉段階 |
| 4 目標設定段階 | 何が変わるのかを細かく話す目標設定 |



家族面接 初回の社交的段階

話しかける順番 だれが話したがっているか

初回面接の四段階

初回面接の段階についてジェイ・ヘイリイは次のように説明しました。

①あいさつを含む社交的段階

②主訴を中心にやりとりが行われる問題確認段階

③家族が互いに話すように要求される相互交渉段階

④何が変わるのかを細かく話す目標設定段階

この中でもより重要とされる社交的段階についてみていきます。

家族面接の初対面するとき、ひとりずつにカウンセラーが声をかけます。参加者全員が、これから始まる面接について、さまざまな合意を得る場面となります。

家族それぞれの了解をえて、ていねいにすすめる必要があります。

「お父さんのジロウさん。お母さんのカズミさん。それから、高校一年生のゴロウさんです。」

と、受付表に記入された内容を確認めます。

特に子どもさんに対しては、ゴロウさんと呼びかけていますか？と呼び方も確認をとるようになっています。「君づけ」か「さんづけ」か「ちゃんづけ」かは、年齢等にに応じて対応します。

この場面をもう少し詳しくみてみましょう。

カウンセラーは父親や母親に対して、お父さん、お母さんという呼び方よりも「お父様」や「お母様」の方が良いのではないかとこの意見もあります。「お母ちゃん」「お父ちゃん」などと親しみを込めて呼んでいる公的機関の職員さんもおられます。

「さん」か「様」か「ちゃん」か、相談機関によって、どのような呼び方をするのがふさわしいのか、少なくともその理由を説明できるようにしておく必要があると考えています。

話しかける順番は親が先？子どもが先？

また、順番にも配慮が必要です。父、母、子ども本人の三人で家族面接に来所した場合は、最初に誰に話してもらうのが最良であるのかの判断をします。

そのために、面接の申込者は誰か？面接室に誰が最初に入室したか、座る場所を決めるとき、誰の了解を得て行動をしているのか、そのときの家族内のやりとりや呼び方などの様子が参考になります。

できる限り家族の普段のルールをくずさないように配慮しながら、話しかけます。

初回面接 相談受付表からの情報

名前 田中ゴロウ
生年月日 ○年○月○日生まれ 16歳
住所 大阪市△△区◇◇町
連絡先 電話
家族 父 ジロウ ○歳
母 カズミ ○歳
紹介者 □□高校

相談受付表 2022年 月 日

名前	_____	
生年月日	昭和・平成 年 月 日生まれ (満 才)	
住所	〒 _____ 市 _____	
自宅電話番号	()- -	
携帯の連絡先	()- -	
メールアドレス	_____	
家族構成		
続柄	名前	年齢/学年

ご紹介者のお名前 _____

初対面のあいさつ

カウンセラーは家族のひとりひとりと話す

話しかける順番は父→母→子ども？



お父さん お母さん 子どもさん

配慮

家族の普段のルールを崩さないように話しかける



家族面接 初回の社交的段階

同居家族の確認 家族の負担を想像する

たとえば、父が面接の予約申込者で、当日、父が最初に部屋に入り、家族の中でもっとも多く話しているような場合は、まずは、お父さんに話しかけます。

また、お母さんが子どもにもいろいろと指示をしているような様子が見られ、面接室の中でもカウンセラーの行動をもっとも注目しているような場合であれば、最初に話しかけます。

名刺や書類などを渡すときに

「どなたにお渡しすればよいですか」

とたずねて、受け取る人を家族に決めてもらい、それに合わせるやり方もあります。家族がどう行動しているのかに沿ってカウンセラーは合流することを心がけます。

さらに慎重さが必要なのは子どもさんへの話しかけです。来所するだけでも大きな負担になっている可能性も考えられるため、子ども

さんの表情やしぐさからどのような心境にあるのかを想像します。

子どもさんが話したそうにしている場合には、こんにちはと最初に話しかけます。子どもさんと関係を作ることが核となります。

しかし、不機嫌そうだったり、動作がゆっくりだったり、椅子に落ち着いて座っていない様子なら、この場所に参加している動機を推測し、学校からの指示などで来所しているような場合には、家族そろっての参加をねぎらいます。

同居家族やかかわりの多い親類の確認

また、初回で確認すべき事項の一つに同居家族、そのほか、子どもさんについて頻繁にかかわっている親類などの方がおられないかをたずねます。すると、父や母から「おばあちゃんかな？」

と、両親が顔を見合わせて確認したりします。家族には、子どもさんからみた祖母がい

て、かわりがあることがわかります。

おばあちゃん、ばあさん、ばーば、などの呼び方も記憶して記録します。そして、

「どちら側のおばあ様ですか」と、確認して、ジェノグラム家族構成図に付け加えます。居住場所などの情報も集め、関係者や協力者の把握をします。

家族の負担

出合いである社交的段階は、家族にとって、何をきかれるのか、何を指摘されるのか、警戒する気持ちも少なくないことを忘れずに対応する必要があります。

カウンセラーが、家族に近寄りすぎたり、愛想よく笑わせたりする必要はなく、少しずつ家族の中に溶け込んで、歩調を合わせていく場面となります。

同居する家族を確認する



子どもさんによくかかわっておられる

ご親戚の方とかおられますか？

→同居家族、関係する親戚を確認する



CON 子さん 心理カウンセラー

家族の負担を想像する



学校から家族カウンセリングに行くように
言われたから、来た